

第5学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年10月24日（水）5校時

場 所：第5学年教室

指導者：T1教諭 嶋津 寿克 T2教諭 日下 美緒

T3講師 晴山 節子

1 主題名 広い心で B-（11）相互理解，寛容

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、B「主として人との関わりに関すること」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」と関連が深い内容項目である。

人間は他者と関わっていく中で、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場を受け入れ、相手への理解を深めることによって、自らを高めていくことができる。また、寛大な心で他人を許すことができるのは、自分も同じ過ちを犯してしまうかもしれないということを自覚しているからである。自分に対して謙虚であるからこそ、他人に対しても寛容になることができるのである。

しかし、時に自分の立場を守るため、他人の過ちを非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れられなかったりするものである。よりよい人間関係を築くためには、相手の立場や気持ちを考え、異なった意見に対しても広い心で受け入れることが大切である。また、自分自身の至らなさにも目を向け、他人の過ちを許し、相手から学ぼうとする謙虚な姿勢をもつことが重要である。

（2）児童について

本学年は、男子7名、女子15名、計22名の学年である。普段から、男女分け隔てなく声を掛け合い、学習活動や委員会活動に取り組む姿が見られる。特に、宿泊体験学習では同じ班や係のメンバーで協力し合って意欲的に活動に取り組むことができた。その一方で、友達と意見が合わないときに、互いが自分の意見を押し通そうとし、活動が行き詰まってしまうこともある。また、友達同士でトラブルが起きた際に、相手の意見に耳を貸さず、相手の至らない点ばかりを責めたり、相手の言動を素直に受け入れようとしなかったりする姿が見られる。

本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

（7月13日実施 男6名 女13名 計19名 未実施3名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている） C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
よく考えて行動し、あやまちは素直に認める	5	8	5	1
友達と仲よくし、お互いに助け合う	5	11	1	2
広い心を持ち、自分と違う意見や立場も受け入れることができる	2	9	7	1

「友達と仲よくし、お互いに助け合う」の項目では、16人が肯定的な回答をしており、友達と仲良く協力して学校生活を送っていることが分かる。普段の生活を見ても、学習活動や係活動などで声を掛け合いながら、助け合って活動する様子がよく見受けられる。一方、「広い心を持ち、自分と違う意見や立場も受け入れることができる」の項目では8名が否定的な回答をしており、友達と助け合うことの重要性は理解しているものの、自分とは異なる意見を受け入れることができていないと感じていることが分かる。これは児童の意識の中に、友達とトラブルになった時などに、相手の意見を素直に受け入れることができなかった経験があるからだと考える。また、「よく考えて行動し、あやまちは素直に認める」の項目では、「だいたい身に付いている」と回答する児童と「あまり身についていない」と回答する児童が同じ人数おり、児童によって意識の差が見られた。このような結果から、協力することの大切さは理解しているものの、必ずしも素直に相手の意見を受け入れることはできていないという本学年の実態が見てとれる。

また、本学級では毎週金曜日、朝の活動で探究の対話（p4c）に取り組んでいる。児童が考えた問いについて対話することによって、自分の考えを伝えたり、友達の意見を質問したりし、対話を深めることができるようになってきた。また、道徳科の授業でも対話を取り入れ、自分達で課題を決めて対話する問題解決的な学習を行ってきた。友達の意見に対して質問したり、対話の中で新たな課題を見つけて発言したりするなど、自分達で対話を進め、広げる様子も見られてきている。

（3）教材について

① 教材名 「名医、順庵」 出典：「新しい道徳5」 東京書籍

② 価値 B－（11） 相互理解，寛容

③ 教材について

本教材は、名医である順庵が、弟子の孝吉の過ちを一方向的に叱責するのではなく、心の内を静かに聞き、遠く離れた病床の母への思いを知って、孝吉の過ちを許すという話である。

順庵の人柄のすばらしさは、孝吉の立場に立って話を聞き、過ちを許しているところや、孝吉の悩みに気付いてやれなかったことを反省しているところから感じることができる。

寛容な態度で弟子に接する順庵の姿から、相手の立場に立って考え、受け入れることや自分に対して謙虚な心をもつことの大切さについて考えることのできる教材である。

④ 教材分析（別紙）

（4）指導に当たって

他者と分かり合うためには、自分の考えを伝えるだけではなく、自分とは異なる意見や立場を受け入れることが大切である。本主題は2時間構成とし、他者と分かり合い、広い心で受け入れることについて考えを深めさせていく。

第1時では孝吉の犯した行為の是非や、その行為を頭ごなしに否定せず、孝吉の思いを受け入れて許した順庵の行動について考えることを通して、相手の立場や気持ちを受け入れることの大切さについて考えさせる。また、自分の至らなさを反省している順庵の姿にも目を向けさせ、相手の立場になって考えるためには、自分に対して謙虚になることも大切であることを感じさせたい。

第2時では、第1時の対話を踏まえて、「広い心」をテーマに改めて問いを立てさせ、対話を行

う。対話を通して広い心で相手と接するためにはどんなことが大切か、自分自身の経験を振り返りながら対話させることによって、他者と分かり合うために大切なことを一人一人が多面的、多角的に考えることができるようにしたい。

対話では多様な考えを引き出したり、友達の考えをもとに自分の考えを深めさせたりするために、TT指導を行う。T2やT3が自分の経験談を話したり、問い返しで新たな視点を与えたりすることによって、対話の内容を深めさせていく。

(5) 研究の視点

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

①自他との対話を促す支援の工夫

a 事前アンケート

- ・事前に「心の広い人とはどのような人か」というアンケートを実施し、導入で結果を提示することによって、自分の考えと教材の登場人物を重ねて考えることができるようにする。また、第2時で自分のこととして考える時の手掛かりとしても提示する。

b 事前読み

- ・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって主体的に対話を進めることができるようにする。

c 心情スケール

- ・心情スケールを活用することによって、孝吉のとった行動の是非について自分の立場を明確にし、それぞれの立場についての理解を深めることができるようにする。

d 2時間構成

- ・1時間目は教材について対話し、登場人物の心情や行動について考えることによって、価値理解や人間理解を深められるようにする。
- ・2時間目は、1時間目の対話を踏まえて自分自身の生活を振り返ったり、広い心とはどのような心か改めて考えたりすることによって、自己理解を深めることができるようにする。

②「あすなろノート」の活用

- ・授業の最後に対話を振り返り、対話の中で心に残った意見や考えが変わったこと、新たに疑問に思ったことなどを書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深めることができるようにする。

(6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言1, 2を踏まえ、対話の中で児童に考えを積極的に発表させ、友達の意見をよく聞いて考えるよう声掛けをする。また、教師も児童の発言に耳を傾け、ともに考える姿勢を示す。

提言3を踏まえ、本時のねらいを明確にし、授業のまとめとして振り返りの時間を設定する。

提言4, 5を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。また、授業のまとめでも自分の考えを書く時間を設定し、振り返らせることを通して、自分自身の姿を見つめさせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

順庵と孝吉の気持ちについて対話することを通して、自分に対して謙虚になり、相手の立場や気持ちを受け入れようとする心情を育てる。

(2) 準備物

- ① 教師：掲示用挿絵 アンケート資料 コミュニティボール ツールキット 心情スケール
- ② 児童：筆記用具 あすなるノート

(3) 学習過程

①第1時

段階	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の広い人とはどのような人か」ということについて、自分の考えをノートに記入する。 <p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、感想とみんなで考えたい課題をノートに記入する。 <p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が考えた課題の中から、本時で話し合う課題を決める。 ・本時の課題に対する自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の広い人」について定義付けをさせることによって、自分の考えをもつことができるようにする。 ※①a ・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもつことができるようにする。 ※①b 【提言4, 5】 ・教材について深く考えることができるようにするため、児童が考えた課題の中から、教師が選んだものをいくつか提示し、児童に本時の課題を選ばせる。 ・課題に対する考えを「あすなるノート」に書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。
本時 導入 5分	<p>1 事前に実施したアンケートの結果を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを受け入れる人 ・何でもいいよと言う人 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の広い人」の定義について全体で共有することによって、さまざまな捉え方があることに気付かせる。
展開 30分	<p>2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>選んだ課題「(例) なぜ順庵は孝吉を許したのか。」</p> </div> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ孝吉は母のことをだれにも相談しなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話に入る前に「友達の意見を否定しない」などのルールを確認することによって、児童が安心して自分の意見を話すことができるようにする。 【提言1, 2】 ・「～さんと似ていて」や「自分だったら」などの言葉が書かれたカードを示し、カードの言葉を使って発言させることにより、自分と友

	人間理解	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ孝吉は言い訳をしなかったのか。 ・もし自分が順庵だったら孝吉のことを許せるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・達の考えを比較しながら、考えることができるようにする。 ・設定された課題を考えた理由を児童に発表させる。盗みに至るまでの孝吉の思いや順庵が孝吉を許した理由を考えさせることによって、教材の価値理解を深めることができるようにする。
	価値理解	<p>○孝吉のとった行動は許されるべきことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高麗人参を盗んだことは「仕方ない」ことか、許されない」ことかを4段階で意思表示する。 <p>【予想される反応 A (仕方ない)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんを助けるためにしたことだから仕方ない。 ・弟子をやめさせられるかもしれないと思ったから、盗むしかなかった。 <p>【予想される反応 B (許されない)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな事情があっても他人のものを盗んでいい理由にはならない。 ・盗んだ薬で治しても母は喜ばないかもしれない。 	<p>○孝吉のとった行動は許されるべきことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情スケールを使うことによって、自分の立場を明確にし、それぞれの立場についての理解を深めることができるようにする。※①c ・4段階で意思表示させることによって、児童に必ずどちらかの立場を選択させる。 <p>【反応 A への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれかを助けるためなら盗みを働いてもいいのか。 ・盗んだことを許しても孝吉のためにはならないのではないか。 <p>【反応 B への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま母が亡くなったら、孝吉は自分を責め続けるのではないか。 ・孝吉の異変に気付かなかった順庵に責任はないのか。 ・T2, T3は少数意見や中間の立場から意見を述べることによって、児童からは出なかった新たな視点に気付かせるようにする。
		<p>◎孝吉から事情を聞いた順庵はどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それは辛かったな。 ・もっと早く俺に相談すればよかったのに。 ・おまえの悩みに気付いてあげられなくて、俺も悪かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孝吉の話聞いた順庵の気持ちを考えさせることによって、順庵が孝吉の立場になって考え、自分の至らなさも反省していることを理解できるようにする。
まとめ 10分	自己理解 他者理解	3 自分の考えをノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を振り返り、心に残った意見や今後に生かしたいことなどを書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。 ※②【提言 3, 4】

		<ul style="list-style-type: none"> ・導入で提示したアンケートに再度注目させ、「広い心」について次時で話し合いたい課題を考えさせる。 ※① d ・数名の児童を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 <p>◇他者と理解し合ったり、他者を許したりすることについて、さまざまな角度から考え、明らかにしていたか。(発言, ノート)</p>
--	--	---

②第2時（本時）

段階	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前	<p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で考えた課題の中から、本時で話し合う課題を決める。 ・本時の課題に対する自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「広い心」について深く考えられるようにするため、児童が考えた課題の中から、教師が選んだものをいくつか提示し、児童に本時の課題を選ばせる。 ・課題に対する考えを「あすなるノート」に書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。
本時 導入 5分	1 前時の対話を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で出た発言やアンケート結果を改めて黒板に提示することによって、児童が対話を振り返ることができるようにする。 ※①a
展開 30分	<p>2 児童が選んだ課題について対話する。</p> <p>選んだ課題「(例)「心の広い人」とはどのような人か。」</p> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い心とはどのような心か ・自分は広い心をもっているか。 ・どうすれば広い心をもつことができるのか。 <p>○広い心をもって相手と関わるのがなぜ大切なのか。</p> <p>【反応 A】(自分のためになる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い心をもって接すると、相手に 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話に入る前に「友達の意見を否定しない」などのルールを確認することによって、児童が安心して自分の意見を話すことができるようにする。 ※① d 【提言 1, 2】 ・児童の発言に対し、教師が問い返すことによって、「広い心」について多面的、多角的に考えることができるようにする。 ・T2, T3は少数意見や中間の意見を述べることによって、児童からは出なかった新たな視点に気付かせるようにする。 ・広い心をもつべき理由を考えさせることによって、自分が広い心で接することで他者とよ

	<p>自己理解</p>	<p>もそうしてもらえらるから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人と仲よくなれるから。 <p>【反応 B】（相手との関係が悪くなる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い心で接しないと友達の仲が悪くなるから。 ・心がせまい人はみんなから嫌われるから。 <p>【反応 C】（問題を解決させるため）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも怒っていると問題が解決しないから。 	<p>りよい人間関係が作れることを理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が他者を許せなかった経験談を話すことによって、常に広い心で他者と接することが簡単ではないことに気付かせる。 <p>【反応 A への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ相手からも同じように接してもらえるのか。 ・いつでも広い心を持つことが大切か。 <p>【反応 B への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許すことだけが相手のためになるとは限らないのではないか。 ・心がせまい人とはどういう人か。 <p>【反応 C への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしても許せないことだってあるのではないか。
<p>◎広い心で相手に接するために大切なことは何だろうか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちになって考えること。 ・自分のことばかり考えないこと。 ・自分にも悪いところがあると考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い心で接するために大切なことは何か考えさせることにより、謙虚な姿勢で相手の立場になって受け止めることが大切であることを理解できるようにする。 <p>◇広い心で接する上で大切なことを考えていたか。（発言・ノート）</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>自己理解 他者理解</p>	<p>3 自分の考えをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を振り返り、心に残った意見や今後に生かしたいことなどを書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。 ※②【提言 3, 4】 ・数名の児童を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 <p>◇他者と理解し合ったり、他者を許したりすることについて、さまざまな角度から考え、明らかにしていたか。（発言、ノート）</p>

(4) 評価

○相手に対して広い心で接する上で大切なことを考えていたか。（発言）

○他者と理解し合ったり、他者を許したりすることについて、さまざまな角度から考え、明らかにしていたか。（発言、ノート）

(5) 板書計画

① 第1時

心情スケール	挿絵③	挿絵②	挿絵①	名医、順庵 ○「心の広い人」とはどのような人か。 ・相手のことを受け入れる人 ・何でも「いいよ」と言う人 ・だれにでも優しくできる人	
仕方ない 許されない	わたしにも、せきにんがある	おまえのしたことは明らかに悪い	早く母のもとにもどりたいても・・・		孝吉、このごろ元気がないが

② 第2時

問い 「心の広い人」とはどのような人か。」	前時の児童の発言	前時の児童の発言	前時の児童の発言	前時の児童の発言	○「心の広い人」とはどのような人か。 ・相手のことを受け入れる人 ・何でも「いいよ」と言う人 ・だれにでも優しくできる人